

H31.1 月策定 『史跡仙台北城跡保存活用計画』に定める自己点検の実施について

1 自己点検について

- 『史跡仙台北城跡保存活用計画』（以下、保存活用計画）では、施策の実現状況を把握するため、自己点検を2年ごとに実施し、委員会に報告し指導助言を得る旨を定めている。
- この間、本市では、保存活用計画の策定後ただちに『史跡仙台北城跡整備基本計画』の策定に着手した中で、令和3年と令和4年には福島県沖地震が発生し、石垣の災害復旧という当初想定していなかった業務が加わったほか、令和2年にはコロナ禍も発生し、自己点検を実効性を伴う形で実施できる状況になかった。
- このたび、災害復旧は石垣の解体が完了し、復旧方針も概ね固まるとともに、コロナ禍も収束して観光客も回復したことから、保存活用計画の策定後初となる自己点検を実施するもの。

2 自己点検の実施方法

- 実施に際しては、「保存活用計画」のP164~165に掲載の自己点検表（文化庁作成）を参考に、本計画の内容や実情を踏まえた点検表（別紙 資料 4-2）を新たに作成し、各施策の取組状況を同表に基づきチェックするとともに、「未取組」となった項目を中心に、今後の取り組み方針や改善策を検討の上、表中に記載した。

3 自己点検の結果の概要

- 「計画策定」や「整備」については、令和3年に「整備基本計画」を策定し、整備の具体的内容を定めるとともに、同計画に基づく取組みを着実に進めることができている。特に、災害復旧やコロナ禍といった突発事象にもかかわらず、当初スケジュールから大きく外れない形で取組みを進めることができている。今後は、整備スケジュールの進展に応じ、必要な管理体制を検討していく。
- 「保存」や「管理」については、地区ごとの本質的価値を踏まえた現状変更等の方針を運用するとともに、植生修景を通じた石垣や遺構の保存を図ることができている。今後は、植生修景整備にかかる環境影響モニタリング調査を実施し、環境保全の措置を検討していく。
- 「公開、活用」については、植生修景による本質的価値の顕在化やガイドボランティアとの連携、小中学生対象のフィールドワークの実施に加え、クラウドファンディングの実施や史跡仙台北城跡 PR アンバサダーの委嘱など、積極的な活用や仙台北城跡への愛着の喚起を図ることができている。今後は、石垣清掃イベントや災害復旧後の石垣の公開を着実に進めていく。
- 「運営・体制・連携」については、庁内関係部署や関係機関・団体との情報共有や連携を適切に行うことができている。今後は将来の大手門復元に向け、必要な体制の検討を進めていく。

なお、各項目における取組状況及び改善策・今後の取り組みの詳細は資料 4-2 のとおり。

史跡仙台城跡保存活用計画の自己点検表

項目	実施例	取組状況				改善策 ・ 今後の取り組み
		未 取 組	取 組 中	取 組 済	備考 (現状、目的、成果等を記入)	
(1) 基本情 報に関 するこ と	ア) 標識は適正に設置されているか	1	2	③	城内 3 箇所を設置済み	定期的な確認を引き続き行っていく。
	イ) 境界標の設置、現地での範囲の把握はできているか	1	2	③	史跡指定時に確認済み	定期的な確認を引き続き行っていく。
	ウ) 説明板は設置されているか	1	2	③	城内 79 箇所に設置 (R6.4 に実施)	定期的な確認を引き続き行っていく。
(2) 計画策 定等に 関する こと	ア) 保存活用計画は策定されているか	1	2	③	H31 に策定 (20 年程度を計画期間としている)	策定から 10 年程度経過した時点で見直しの必要性を検討する。
	イ) 保存活用計画に基づいて計画策定等が実施されているか	1	2	③	整備基本計画を策定した 植生修景方針を策定した	引き続き必要に応じて計画策定を検討する。
	ウ) 定期的な保存活用計画の自己点検は実施されているか	1	②	3	今回の点検が策定後、1 回目の自己点検	災害復旧の終了を踏まえ、今後は 2 年に 1 回自己点検を行うように計画する。
	エ) 保存活用計画書の見直しは実施されているか	①	2	3	策定から 10 年経過しておらず未実施	保存活用計画に基づき、10 年程度経過した段階で見直しの必要性を検討する。
(3) 保存に 関する こと	ア) 指定、選定時における本質的価値について十分把握できているか	1	2	③	保存活用計画において地区ごとに整理済み	今後も調査等により新たな価値が発見された場合は、保存活用計画の修正を検討する。
	イ) 調査等により史跡等の価値等の再確認はできているか	1	2	③	発掘調査および石垣測量を継続的に実施している	引き続き調査等を実施し、成果をまとめる中で価値等の再確認を行う。
	ウ) 専門技術者の参加、連携は図られているか	1	2	③	石垣災害復旧にあたり、専門技術者が参加している	修理や整備の際には専門技術者の参加、連携を検討する。
	エ) 史跡等の劣化状況や保存環境に係る調査はされているか	1	2	③	植生調査を実施し保存に影響のある樹木の把握を行っている 石垣測量を実施し現状把握を行っている 通常業務内での巡回を行っている	今後も必要な調査を継続するとともに、定期的な史跡地内の巡回を継続する。また、自然災害があった際には史跡のき損がないか速やかに確認する。
	オ) 災害対策は十分されているか	1	②	3	石垣の災害復旧の中で、石垣の災害対策について検討中	災害復旧箇所以外の災害対策については、保存活用計画や整備計画の見直しの中で検討する。

項目	実施例	取組状況				改善策 ・ 今後の取り組み
		未取組	取組中	取組済	備考 (現状、目的、成果等を記入)	
(3) 保存に関する こと	カ) 本質的価値以外の諸要素の取扱いを検討しているか	1	2	③	植生については植生修景方針を定め、その他の要素も整備基本計画に規定している	今後も状況の変化に応じた対策を実施する。
	キ) 保存活用計画に基づいて保存が実施されているか	1	2	③	植生調査の結果を基に樹木等の伐採を行い、遺構や石垣の保存を図っている	事業の進捗にあわせて保存活用計画に基づく保存が実施されているか確認する。
(4) 管理に関する こと	ア) 日常的な管理はされているか	1	2	③	史跡地内の除草等を継続的に実施している	引き続き除草等の維持管理を実施していく。
	イ) 史跡等周辺の環境保全のために、地域住民や関係機関との連携が図られているか	1	2	③	法令等に基づく手続きや事業前に関係機関への情報共有を行っている	引き続き関係機関との連携に努めていく。
	ウ) 条例、規則、指針等、環境保全の措置を定め、実行しているか	1	②	3	隣接する広瀬川の条例により保全の措置が定められている 植生管理については植生修景方針を策定した	植生修景整備が環境に与える影響を確認するため、モニタリング調査を企画する。
	エ) 保存活用計画に基づいた地区ごとの管理が実施されているか	1	2	③	保存活用計画に定める地区ごとの現状変更等方針に基づき許可申請を行っている	引き続き現状の管理を継続していく。
(5) 公開、 活用に関する こと	ア) 公開が適切に行われているか	1	②	3	災害復旧につき一部立入制限があるが、おおむね公開されている	立入制限の箇所については、災害復旧後に公開を再開する。
	イ) 史跡等の本質的価値を学び理解する場となっているか	1	2	③	植生修景を通じて本質的価値を顕在化させ、史跡の価値を学びやすい環境づくりを進めている	引き続き本質的価値が顕在化するように植生修景を進めるとともに、調査結果の公開展示に努めていく。
	ウ) 市民の文化的活動の場となっているか	1	2	③	ガイドボランティアへの協力を行っている	石垣清掃イベント等を再開し、市民の文化的活動の場を提供する。
	エ) まちづくりと地域のアイデンティティの創出がされているか	1	2	③	災害復旧でクラウドファンディングを実施したほか、史跡仙台城跡 PR アンバサダーを委嘱した	今後も市民参画イベントの企画や PR アンバサダーの起用を通じ、仙台城跡への愛着を育み、シビックプライドの醸成に努める。
	オ) 文化的観光資源としての活用がされているか	1	2	③	関連部署と協力し、情報発信や魅力の向上に努めている	引き続き史跡の本質的価値を最大限に生かした活用に努める。

項目	実施例	取組状況				改善策 ・ 今後の取り組み
		未取組	取組中	取組済	備考 (現状、目的、成果等を記入)	
(5) 公開、活用に関する こと	カ) 体験学習等は計画的に実施しているか	1	②	3	小中学栄を対象としたフィールドワークは定期的 に実施しているが、コロナ禍で中断した石垣清掃イ ベントは再会できていない	石垣清掃イベントは令和6年 度より再開する。
	キ) パンフレット等は活用されているか	1	2	③	ガイダンス施設のパンフ レットは R2 に改定し、市 民のみならず観光客にも 広く活用されている	今後も積極的な活用に努め ていく。
	ク) 外国人向けの対応はなされているか	1	2	③	ガイダンス施設パンフレ ットの多言語化と説明板 への外国語併記を実施済 み	今後も積極的な活用に努め ていく。
	ケ) ガイダンス等の施設は十分に活用されているか	1	2	③	来館者数はコロナ禍によ り大きく減少したが、現在 はコロナ禍前の水準にほ ぼ回復した また、令和5年度より利用 者アンケートを開始した	アンケート結果をもとに更 なる活用を図っていく。
	コ) 日本遺産を構成する文化財と一体的な活用がされているか	1	2	③	文化財展等のイベントに て、日本遺産の積極的な PR を行っているほか、日 本遺産イベントを仙名城 跡で実施した	引き続き一体的な活用に努 める。
(6) 整備に 関する こと	ア) 整備基本計画は策定されているか	1	2	③	R3 に策定 (R20 までの 18 年間を計画期間とし、R13 以降は R8～12 に事業計画 の検討としている)	計画の進捗状況等にあわせ て適宜計画の見直しを行う。
	イ) 史跡等の表現は、学術的根拠に基づいているか	1	2	③	史資料の調査成果に基づ いて表現している	引き続き調査成果に基づい た表現を行う。
	ウ) 遺構等に影響がないように整備されているか	1	2	③	調査結果に基づき、遺構等 に影響がない範囲での整 備を行っている	引き続き調査成果に基づい て整備を行う。
	エ) 修復において、伝統技術を十分尊重して実行できたか	1	②	3	伝統工法を基本とした石 垣修復を行っている	今後も伝統技術を尊重した 修復に努める。

項目	実施例	取組状況				改善策 ・ 今後の取り組み
		未取組	取組中	取組済	備考 (現状、目的、成果等を記入)	
(6) 整備に関する こと	オ) 整備後に、修復の状況を管理しているか	①	2	3	現在、石垣修復中であるほか、整備はまだ行っているため、未実施	整備後は定期的な調査や巡回を行い、適切な管理に努める。
	カ) 復元展示において、当時の技法、意匠、工法、材料について十分検討したか	①	2	3	保存活用計画策定後に行った復元展示がないため未実施	設計段階から十分に検討して復元展示を行う。
	キ) 活用を意識した整備が行なわれているか	1	2	③	植生修景では本質的価値の顕在化を行い、来訪者が見ることが出来る整備を行っている	引き続き活用を意識した整備に努めていく。
	ク) 多言語に対応した整備が行なわれているか	1	2	③	説明板を多言語化している	引き続き多言語対応の充実に努める。
	ケ) 整備において目指すべき環境等の姿を実施できたか	1	②	3	整備基本計画に基づき実施中である	引き続き整備基本計画を着実に進めていく。
	コ) 整備基本計画に基づいて実施されているか	1	2	③	石垣の災害復旧という突発事象はあったものの、整備基本計画のスケジュールに大幅な変更はなく進めることができている	引き続き整備基本計画に基づき整備を進めていく。
	サ) 整備基本計画の見直しはされているか	①	2	3	策定から3年目であるため未実施	R8～12 に実施する予定であるが、状況の変化等があれば適宜見直しを検討する。
(7) 運営・体制・ 連携に関する こと	ア) 運営については適切に行われているか	1	2	③	庁内関係部署で連携を図り、一体的な維持管理に努めている	今後も運営に支障が生じないよう体制維持に努める。
	イ) 体制については十分であるか	1	②	3	将来の大手門復元に向け、必要な体制について検討を行っている	引き続き事業実施に必要な体制を検討する。
	ウ) 他部署との連携については十分であるか	1	2	③	必要な情報共有を適宜行っている	引き続き情報共有を行うとともに、共同での事業実施にも努める。
	エ) 市民団体との連携については十分であるか	1	2	③	仙台城ガイドボランティア会と連携している	必要な情報提供や支援を適宜行っていく。
	オ) 関係機関・団体との連携については十分であるか	1	2	③	情報共有を定期的に行いながら、必要に応じて調整を行っている	今後は活用面での連携も検討していく。

項目	実施例	取組状況				改善策 ・ 今後の取り組み
		未取組	取組中	取組済	備考 (現状、目的、成果等を記入)	
(8) 予算に関する こと	ア) 予算確保のための 取組みはあるか	1	2	③	災害復旧のためのクラウドファンディングを行った 整備については基金を用意している 国庫補助を利用して事業を進めている	今後も予算確保に必要な取組みを随時検討・実施していく。

(文化庁『史跡等・重要文化的景観マネジメント支援事業報告書』より引用・一部改変)

第12章 経過観察

第1節 方向性

保存・活用・整備、運営・体制の整備の各々に関する各種の施策の実現状況を把握するために、定期的に自己点検を行います。自己点検はいわゆる、PDCAサイクル[※]の考え方に基づき、実際の事業を通じて実現した内容が、企画及び計画の段階において掲げた目標をきちんと達成できているか、実際に行っている公開及び運営が当初の計画どおりに進められているか等の点について確認、評価し、必要な場合は内容の改善につなげます。また、自己点検を行うことにより、事業の関係者間において目標達成のための意識を高め、相互の連携及び協力を円滑に進めることができるようにします。

※PDCA サイクル：Plan（計画）Do（実施・実行）Check（点検・評価）Act（処置・改善）の頭文字。業務の計画を立て（plan）、計画に基づいて業務を実行（do）し、実行した業務を評価（check）し、改善（act）が必要な部分はないか検討し、事業の推進を図る。

第2節 方法

1 自己点検の実施

自己点検は別添の自己点検表を参考にした点検表を用い、保存・活用・整備、運営・体制の整備の各々に関する各種の施策の実現状況を把握します。

自己点検は2年ごとに行い、点検結果は有識者等による委員会に報告し、助言指導を得ることとします。

2 計画の見直し

本計画はおおむね20年程度の計画期間としていますが、10年程度が経過した段階で見直しの必要性について検討します。また、定期的な自己点検の結果や周辺環境の変化等により事業内容の改善の必要がある場合にも、見直しの必要性について検討します。